

# 防災対策の強化に向けて

8月の台風12号、11号による豪雨災害は、鏡・土佐山・春野地域と合併後、初めての大きな災害となりました。特に、中山間地域を中心とした土砂災害や道路の寸断による集落の孤立のほか、各河川の氾濫による浸水被害や農作物への被害など、市内各地で被害を受けました。こうしたことから、9月議会では本市の防災対策について、さまざまな視点から質問が行われました。

## 市内全域への避難勧告

**問** 市内全域に避難勧告を発令した経緯を聞く。

**答** 8月2日から豪雨で仁淀川が避難判断水位に近づいたことや、北部地域において土砂災害の危険性が高まったことから、8月3日午前9時に春野地域および中山間地域に対して避難勧告を発令した。

その後も強い雨が続き、累積雨量が増加する中で、鏡川と紅水川が氾濫水位に近づき、満潮時刻とも重なることから、人的被害が生じる可能性があるかと判断し、同日午前10時に市内全域に避難勧告を発令した。

**問** 今回の対応について批判の声も聞くが、見解を聞く。

**答** 市内全域に避難勧告を発令した一連の判断については、災害対策本部として間違っていないと考えている。

しかし、緊急エリアメールの



鏡的湊地区の土砂災害

配信の遅れや、避難所開設の遅れもあったことから、原因や課題等を十分に検証し、具体的に対策を講じていく必要がある。最終的には、災害対策本部員会議において検証を行い、職員災害初動マニュアルを全面改定するなど、今後の災害に対して万全の態勢をとっていく。

**問** 市民への情報提供体制について聞く。

**答** 市民への情報提供については、避難勧告や避難指示の発令、避難所の開設、また土砂災害の危険性等の情報を防災行政

無線やテレビ、インターネット等により行った。

また、今回初めて緊急エリアメールを通じて避難勧告や避難指示等の発令情報の提供を行ったが、市民から多くの反応があり、その情報伝達力を改めて認識した。今後は、情報提供の在り方について検証するとともに、必要な改善を行い、緊急エリアメール活用の熟度を上げていきたい。

さらに、その他の手段として、SNS（ソーシャル・ネットワーク・キング・サービス）を活用した災害情報の提供・収集がより効果的だと考えており、他都市の事例等も参考に検討していきたい。

**問** 聴覚障害者への災害情報の伝達方法について聞く。

**答** 災害時における避難行動

**問** 合併地域の災害対応と今後の対策について聞く。

**答** 鏡・土佐山の中山間地域については、夜間において職員の到着に時間を要したケースがあった。また、崖崩れにより道路が寸断され、孤立した集落との連絡方法等にも多くの課題が残された。

今後、地域の方々と意見交換を行い、地震災害だけでなく風水害についても実効性のある中山間地域防災計画を本年度中に

## 9月定例会で可決した 主な議案

○子ども・子育て支援法施行条例制定議案  
子ども・子育て支援法の制定に伴い、保育の必要性の認定に係る保護者の就労時間に関する要件、報告等義務違反者に対する過料等を定めるため、条例を制定するもの。

○市営住宅条例の一部改正議案  
住宅市街地総合整備事業による都市再生住宅および中山間地域活性化住宅整備事業による住宅を市営住宅として新設するとともに、規定の整備を行うため、条例を一部改正するもの。

○消防救急デジタル無線（活動波）整備事業に伴う設備機器購入契約締結議案  
標記設備機器一式について、価格11億8,584万円で購入契約を締結しようとするもの。

## 人事議案

要支援者への支援については、今年度から具体的な検討を行っており、障害者関係団体とも協議することとしている。

今後、聴覚障害者に対する文字表示装置付き戸別受信機の貸与も含め、確実な情報の伝達手段について検討していく。

## 合併地域の防災対策

策定する。

また、鏡・土佐山・春野地域の災害対応については、できる限り当該地域出身の職員を災害対策本部の地域運営室に配置するなど、地域の特性に応じた避難対策を構築していく。

**問** 今後の水害対策について聞く。

**答** 春野地域においては、仁淀川に氾濫の恐れが生じたことなどから、改めて治水対策が課題として挙がっている。

監査委員  
高橋 正志  
公平委員会委員  
長山 育男  
人権擁護委員  
小笠原 一清

仁ノ地区については、排水ポンプの増設により抜本的な解決を図っていく。西畑地区については、高知河川国道事務所の保有する排水ポンプ車の出動条件について、今後具体的な協議を行っていく。また、冠水の原因について国、県と相談しながら調査・検討していく。